

記者会見概要

【日 時】 平成 27 年 6 月 19 日（金） 16 時 00 分～16 時 15 分

【場 所】 都道府県会館 5 階 本会会議室

【発言概要】

高島会長：東京都議会議長の高島なおきです。本日の臨時総会において第 68 代会長に就任しました。至らない点もありますが、プレスの皆様方のご指導もいただきながら、しっかり努力して参りたいと思っていますので、よろしくお願ひしたい。

地方自治を取り巻く情勢は依然として厳しく、多くの課題が山積している。このような時期に伝統ある全国都道府県議会議長会の会長という重責を担うことは、誠に光栄であり、身の引き締まる思いである。

政府は本年を地方創生元年とし、人口減少の克服と地方創生の実現に向け、取組を加速させることとしている。今月中には、「まち・ひと・しごと創生基本方針 2015」が取りまとめられる予定であり、私も先般、会長職務代理者の立場で地方六団体の一員として意見を述べてきた。

地方創生を実現するためには、地方が自らの実情において、創意工夫を凝らし、自主性、自立性を最大限発揮して取り組む必要があると同時に、国においても中・長期的な観点に立った施策を迅速かつ着実に実行すべきである。

国の財政健全化計画の策定が進められる中で、地方への歳出抑制の動きがあるが、他方、経済活性化、雇用対策、人口減少対策などの施策を進めるためには、安定的な財源の確保が不可欠である。地方創生の更なる推進に向け、役員が一丸となって取り組んで行く所存であるので、是非、ご理解いただくようお願いしたい。

また、本会は議会機能の充実強化を重要課題として、これまで精力的に取り組んでいる。現在の地方制度調査会における議論などを踏まえ、残されている諸課題の解決に向け、引き続き取り組んでいく。

一方で、都道府県議会や議員に対して、住民の方々の厳しい目があることも真摯に受け止めなくてはならない。臨時総会の場でも述べたが、今回の統一地方選挙では低投票率や無投票当選が目立ち、都道府県議会のなり手不足には大きな課題があると受け止めている。

住民に信頼され、期待される地方議会とするためには、我々議会人が更なる資質の向上に努めるとともに、不断の議会改革の取組が重要である。

いずれにしても、本会が多年わたり培ってきた伝統の下に、会員各位の支援、協力を仰ぎながら、諸課題の解決のために一所懸命努力していくので、よろしくお願ひしたい。

記者：6月16日の高市総務大臣と地方六団体代表との会合の時に、高島会長職務代理として、東京オリンピック・パラリンピックで東京と地方のコラボを図っていくべきではないかとの指摘をされたと、知事会の山田会長から紹介されたが、東京都として、難しい立場もあると思うが、地方創生といったときに、今後どのようなことを発信したり、調整したりしていくのか。

高島会長：高市総務大臣には、私からお願いをした。実は内閣官房が中心となった「ホストシティ・タウン構想」というものがあり、要するにオリンピックに向けて地方自治体、アスリート、それから外国人旅行者などとのコラボレーションをしっかりとやることとなっているが、残念なことに、これは関係省庁の方々が出席し、協議されるわけで、開催都市の東京が入っていない。

また、報道でもあるように、新潟県の三条市の市長が、5年後のオリンピックに向けて各市が景気対策や経済活性化も含めて、いろいろなことをやろうということで、当然、事前の合宿など、いろいろなことを考えているようである。

もちろんこれは正しい判断だと思う。ただし、開催都市の東京としてみれば、是非、東京も交えて、共により良き関係を築きながら、大きな力になっていくべきだと思っている。

このコントロールを是非、総務省にお願いしたい。国が一所懸命やる、各地方が一所懸命やる、やはり東京もその中で共に努力し、汗を流して、オールジャパンの中で、五年後のオリンピックをどう迎えていくか、このことは私ども努力していかななくてはならない。

この機会に是非、総務大臣に地方と東京のコラボレーションをお願いしたいという趣旨でお願いし、高市総務大臣からは、良い考え方で進めたいという話をいただいたと思っている。

記者：今後、地方六団体と大臣などとの会合に出席されると思うが、その場で、例えば、法人税や偏在是正の問題などに対しては、東京都特有の主張があると思うが、その辺のバランスというか、どう捉えていくのか伺いたい。

高島会長：基本的には、挨拶の中でも述べたように、地方創生元年と言われる時代に、しっかりと各自治体、地方が創意工夫を凝らして頑張っていかななくてはならない。また、片側で国の財政健全化計画の中では、歳出抑制という話がある。私は、6月16日の総務大臣との会合の場や、17日の国と地方の協議の場でも、是非、地方創生でしっかりとやってもらいたい、また、地方の一般財源総額を削減されては困るという話をした。

自分自身の心の中でいろいろな想いはあり、私人としては葛藤がある。しかし、私は、与えられた立場の中で、最大限、地方がどういうかたちでしっかりと頑張っていけるのかということに、努力していくべきだと思っている。

勿論、この暮れに向けて、偏在是正の議論がいろいろあることは事実なので、それには東京都議会議長として力一杯、東京都の主張はしていきたいと思っている。ただし、会長職という立場では、47都道府県の代表者として、国の関係者と、しっかりと話をしていきたいと思っている。

記者：統一地方選では、なかなか地方議員のなり手がいないという問題が、かなり全国で今回クローズアップされたと思う。

議会改革等は、地方の各議会でされるものだと思うが、都道府県議長会として、このようなことを検討していきたいというようなことがあれば、抱負と併せて聞かせてもらいたい。

高島会長：先ほどの挨拶でも話したが、地方議員のなり手が少なくなってしまったということが、無投票当選の増加や投票率の低下に繋がっているということは事実であると思う。

いろいろな考え方があり、そういった意味では地方議会そのものの姿勢も有権者には見られているのだと思う。言葉は悪いが、自分の一票が自分達の住んでいるまちを変えるとか、そういう思いが非常に薄れてきたのだと思う。

私は、敢えてその理由を述べる必要はないと思っている。それよりも、地方議会そのものが変わっていく必要があるのではないか。有権者に信頼される、そして頼られる地方議会として成長していくことが大きな力になる。そして、有権者にも理解してもらえる。

そういう強い信念で頑張っていきたいと思う。ただし、いろいろな制度などを変えていかななくてはならないことは多々あると思うので、これについては各議長とともに大いにディスカッションして進めていきたいので、ご理解をいただきたい。

(以 上)